

令和3年度 苫小牧市立北星小学校 学校経営方針

I 学校教育目標

＝ 豊かな人間性とたくましい実践力をもった子どもの育成 ＝
よく考える子（知） 思いやりのある子（情） ねばり強い子（意） じょうぶな子（体）

II 基本的な考え

子どもの成長を担う教職員には、いかに時代が変化しようともその時代背景や要求を踏まえつつ、次代を担う子ども達を育てるという極めて重要な使命と責任を持っている。さらに、子ども達の人格形成を担う存在であることから、その職責の重さを絶えず自覚し、自らが子ども達の道しるべとなるべく、常に資質能力の向上を図り続けなくてはならない。

また、社会性や規範意識の低下など教育を取り巻く情勢が厳しさを増している中、学校では、確かな学力、健やかな体、豊かな心の育成、いじめや不登校の増加など様々な教育課題への対応が求められている。

併せて、常時、感染症対策のレベルを確認しながら教育活動を行わなくてはならない現状を踏まえ、臨機応変に状況に対処しながら、ねらいを適切に押さえ教育活動を精査していく必要がある。

この困難の中、学習指導要領完全実施するための教育課程管理をしつつ、教職員は激動の時代の教育に対応できるような資質能力の向上に努めることが重要な使命となる。その資質能力とは次の通りである。

職員は自己点検をし自己啓発の視点を明らかにしなくてはならない。

1 教育者として強い使命感、倫理観と子どもへの深い教育的愛情を常に持ち続ける教職員。

- 教育公務員として遵守すべき法令や職務等を理解する力。
- 法令等で定められた職務上の義務を果たす力。
- 子ども一人一人の可能性に目を向け、それを伸ばす力。
- 社会体験や保護者、地域との関わりの中で人間性、社会性、協調性を高める力。
- 教職への誇りを持ち人権意識に基づき、教育活動において全ての子どもを尊重する姿勢。
- 情報収集や各種研修を通して必要な資質能力を身に付けようとする姿勢。

2 教育の専門家として実践的指導や専門性の向上に主体的に取り組む教職員。

- 子どもに積極的に関わり、子ども一人一人の背景や環境を含めて的確に子どもを捉える力。
- 学習指導要領を踏まえ、ねらいを的確にした指導案を作成し、意図的計画的に授業を展開する力。
- 個や集団を指導するための手立てを理解し実践に生かす力。
- 子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して自己実現を図る指導を行う力。
- 子ども同士のコミュニケーションを促進し、計画的に望ましい集団を作り上げる力。
- 「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「カリキュラムマネジメント」「ICTを活用した指導」「道徳教育の充実」「特別支援教育の充実」「外国語教育の充実」について理解し実践に生かす力。

3 学校作りを担う一員として地域とも連携協働しながら課題解決に取り組む教職員。

- 職業観や人間関係の他、公共心や社会通念などの重要性を理解し、それに基づき行動する力。
- 学校の方針等をわかりやすく伝えと共、相手の意図を理解し意思疎通を図る力。
- 他の教職員と積極的に関わりながら、学校の中で求められる役割を果たす力。
- 保護者や地域等との関わりを深め連携協働して取り組む力。
- 支え合える環境を作ると共に、他の教職員を積極的に支援する力。

教育には完成形がなく、目の前の子どもたちにとって、よりよいものを追究し続ける上限のない営みである。本校における全ての教育活動は教育目標の具現化に向けられるが、その過程は、年度ごとに子どもたちの実態によって変わるものである。そこで、課題を明らかにして日常的な検証改善を行い着実な歩みを進める。

Ⅲ 経営の重点

1 確かな学力の向上

- (1) 苫小牧市学力向上アクションプランの推進
 - ① 共通取組事項を踏まえた授業改善の推進
 - ② 授業改善に向けた課題解決的研修の推進
 - ③ 読書啓発活動の推進
 - ④ エリア会議学力向上部会の充実
- (2) 各種学力調査結果や児童の実態を踏まえ、個に応じた指導の充実
 - ① 各種調査結果や実態から明らかになる課題の共有化
 - ② 各種調査結果や実態に基づく個々の児童の特性把握
 - ③ 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善
- (3) 学びに向かう力、人間性の確立
 - ① 知識・技能の確実な習得
 - ② 習得した知識・技能を活用させる思考力、判断力、表現力を鍛える場の確保
 - ③ 21世紀型能力をモデルとした資質・能力の育成を授業に落とし込む
- (4) 指導方法の改善
 - ① 児童の実態、教科や単元の特徴に適した指導方法の改善
 - ② 各種加配教員の活用を最大限に生かした指導方法の改善
- (5) 言語環境の整備と言語活動の充実
 - ① 観察・実験やレポートの作成、論述等の充実
 - ② 各教科の特質に応じた言語活動の充実（国語科を中核として）
 - ③ 学校生活全体における言語環境の整備（適切な言葉遣い、挨拶の励行）
- (6) 学力を下支えする北星スタンダードの徹底
 - ① 学習規律の統一（板書、ノート、机上、持ち物）
 - ② 発達の段階を意識した家庭学習の啓発
 - ③ 朝学習や補習等の設定の工夫
- (7) 外国語活動、外国語科の充実
 - ① ALT 拡充に対応し活用計画を立て効果的な小中連携を推進する。

2 豊かな心の育成

- (1) 苫小牧市道徳教育アクションプランの推進
 - ① 児童が考え議論する道徳の促進
 - ② 道徳カリキュラムの充実
 - ③ 情報モラル教育の推進
 - ④ 積極的な外部講師招聘による「こころの授業」の展開
 - ⑤ エリア会議道徳部会の充実
- (2) 地域・PTAとの連携による各種体験活動の充実と場の設定
 - ① 積極的な教育資源としての地域の人材活用
 - ② 外部講師とのふれあいによるコミュニケーション能力の育成
- (3) 図書ボランティア、学校司書との連携した読書活動の充実
 - ① 学校司書と担当教師との緊密な連携
 - ② 図書ボランティアから寄せられる声を活用した図書館運営
 - ③ 朝読書及び保護者による読み聞かせの充実

3 生徒指導の充実

- (1) 生徒指導の基盤となる児童理解の深化
 - ① 子ども一人一人に対する多面的・総合的な理解（チーム北星として）
 - ② 人間的なふれあいによる教師と子どもの信頼関係の構築
 - ③ いじめの早期発見・防止のための組織的、計画的な取組

- ④ エリア会議生徒指導部会の充実
- (2) 望ましい人間関係づくりを基盤とした豊かな集団生活が営まれる積極的生徒指導の展開
 - ① 子ども一人一人が存在感をもてる共感的な人間関係の構築
 - ② 自己決定の場の保障と自己実現を図れる人間関係づくり
 - ③ 学年の枠を超えた温かい人間関係の醸成
- (3) 集団指導と個別指導の相互作用による積極的生徒指導の展開
 - ① 個を高めることを意識した個別指導のあり方
 - ② 集団を高めることを意識した集団指導のあり方
 - ③ 個や集団の状態に応じた指導のあり方
- (4) チーム北星として組織的、計画的な積極的生徒指導の展開
 - ① 学習、生活の全ての共通取組事項を北星スタンダードとし共通理解、共通行動とする。
 - ② 家庭や地域社会及び関係機関等との連携・協力

4 健康・安全教育の充実

- (1) 苫小牧市体力向上アクションプランの推進
 - ① 授業改善の推進
 - ② 新体力テストの実施と結果を踏まえた運動プログラムの実施
 - ③ 家庭と連携した体力手帳の活用
- (2) 災害や事故から生命を守る指導を徹底し、子ども自身が自分の身を守ろうとする意識の育成
 - ① 子どもの危険回避能力を高める安全計画の改善・充実
 - ② より現実的な交通安全教室、避難訓練、防犯教室等の工夫・改善
- (3) 感染症から身を守るための方法と、他に感染させない方法、並びに日常生活における健康に関する知識の理解や体験的な活動を通して、子ども自らが関心を高める指導の充実
- (4) 清掃指導を徹底し、校舎内外の美化に努めようとする意識の育成

5 特別支援教育の充実

- (1) 苫小牧市特別支援教育アクションプランの推進
 - ① 個別の各種計画等の作成および活用の推進
 - ② 授業改善推進
 - ③ エリア会議特別支援部会の充実
- (2) 一人一人の教育的ニーズを把握し、適切かつ必要な支援(通級指導の充実)
- (3) 学級担任や配慮を要する子どもを組織として支えるための校内支援組織の充実、教師の指導力の向上
- (4) インクルーシブ教育の理念を理解し、全ての子どもにとって「わかる」「できる」を実感できる教育環境の整備と指導法の研究

6 ICTによる授業改善、業務改善

- (1) GIGA 配置のタブレットの有効活用
- (2) ICT 活用など働き方改革
- (3) ICT 教材の整備

7 開かれた学校づくりの推進 (全ての分掌、個人で意識)

- (1) 社会に開かれた教育課程の実施と改善のための朱入れ
- (2) 学校教育力エリア会議を軸とした小中連携
 - ① 苫小牧市学校教育力向上マスタープランの強力な推進(学力・道徳・特別支援・生徒指導)
 - ② 各部会の主体的な課題の明確化
- (3) 学校・家庭・地域のそれぞれが双方向に開かれた連携の構築
 - ① 各種通信の充実と積極的な情報発信
 - ② 十分な説明をした上でのニーズや期待に応じた教育活動の展開
 - ③ 地域人材をはじめとする教育資源の有効活用